

1 題材名

『すごいぜ伊能忠敬 4万kmにわたる測量だ』 <4年 歴史的分野>
～伊能忠敬 千葉市を測る～

2 授業のねらい

- ①人工衛星やGPSという近代的な測量機器が無い時代に、現代の地図と比べて殆どずれのない正確な日本地図を自ら実測して歩いて作った伊能忠敬の業績を学習して、千葉の郷土の偉人への興味関心を高めたいと思います。
- ②伊能忠敬は、測量時の1日の様子・測量場所等を「測量日記」という書物に細かく記録しているので幕張から浜野までの千葉市の測量を教材化して「伊能忠敬の千葉市の測量」の授業を構成します。

3 指導計画上の位置付け

- ◇4年社会科指導計画 4「千葉県の伝統や文化、先人のはたらき」と関連した学習です。
- ◇4年副読本「地域の発展につくした人たち」の選択学習に追加する1時間の学習です。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①行基の作成と伝えられる地図を見た後に、伊能図と比べてその正確さを見つけます。さらに、伊能忠敬記念館のHPを参考に、忠敬はどのようにして正確な地図を作ったのかという疑問を持ちます。
- ②測量日記の千葉市測量部分を資料として、馬加(幕張)・検見川・稲毛・黒砂・村田等の千葉市の地名を追いながら、分かったことをワークシートに書きます。
* 海岸線を測量、朝早くから夜遅く迄測量、夜も天体観測
- ③地図帳の千葉市部分の地図を使って、忠敬が千葉市で測量した1日分の長さを縮尺の考え方を使って測り、ワークシートに書きます。
* 測量しながらも一日に約20km歩いている、毎日測量している
- ④学校の事前の学習で、児童が自分の一步の歩幅を測っておき、ワークシート「〇〇小学校測量日記」に記入します。そのワークシートを使ってグループで協力して廊下や校舎の測量体験を行います。歩測による測量がいかに難しいかを体験して、忠敬の測量の正確さと素晴らしさを話し合います。
- ⑤体験学習を振り返り、忠敬の測量の素晴らしい所を見つけてグループで話し合い発表します。
* 測量の旅は計10回、合計17年間、歩いた道のりは4万km以上、完成する前に亡くなり弟子が完成

<活用する主な資料>

- ◎行基の作成と伝えられる日本地図と伊能図
- ◎伝記「千葉の先人たち」
- ◎伊能忠敬の人物年表
- ◎「測量日記」千葉市部分のワークシート(当館作成)
- ◎歩測による測量体験のワークシート(当館用意)

5 指導上の留意点、その他

- ◇50歳という当時では高齢でありながら、新しいことに挑戦した素晴らしい働きを、実際の伊能図や測量日記をもとに児童に考えさせながら、話し合いを深めたいと思います。
- ◇伊能忠敬を千葉市歴史学習として学ぶために、測量した千葉市の場所の距離を地図で測ったり、測量した千葉市の地名を確認したり、測量仕方を体験したりして、分かりやすく学習を進めたいと思います。
- ◇伊能忠敬の測量の仕方を廊下や校舎を使って簡易的に疑似体験して、忠敬の測量の仕方を体験したいと思います。そのための準備の仕方や必要な資料は当館で提供できます。
- ◇伊能忠敬記念館に校外学習を行う予定があれば、校外学習と関連を図って学習内容を変更します。